

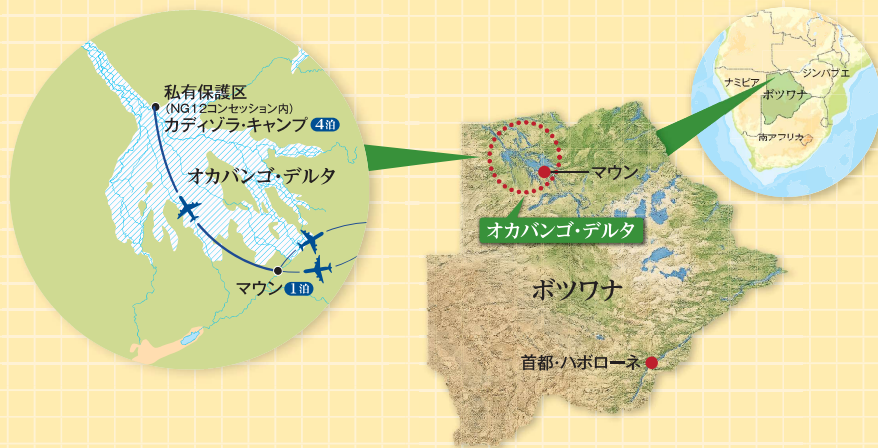
川が消える幻の湿地 ポツワナの水の迷宮へ ～オカバンゴ～命が脈打つ野生の楽園



湿地帯でのサファリ

砂漠のなかの水の宝石 オカバンゴ・デルタ

アフリカのボツワナ北西部、カラハリ砂漠の境界付近で三角状に広がる内陸のオカバンゴ湿地帯。アンゴラ高原で雨季に降った雨に端を発するオカバンゴ川が海に流れ込むことなく、大地や大気に消えてしまいます。その独特な自然環境を背景に、記念すべき1,000件目の世界遺産として2014年に登録されました。オカバンゴデルタが乾季を迎える5月～10月は、湿地帯が特に潤っている季節です。



さまざまな角度で楽しむアフリカの動物観賞体験

オカバンゴ4連泊の滞在中は、湿地の推移や天候に合わせて多彩なサファリ体験をご案内します。異なる角度から垣間見る動物たちの素顔は、その度に新鮮な印象を残してくれます。予期せぬ気象変化が起きる大自然の状況に合わせて、オカバンゴ大湿地ならではのモココ(木製の小舟)やサファリカーなど乗り物を利用した観察だけでなく、静寂に包まれるロッジでの滞在時間も魅力の1つです。

1 モココ(手漕ぎの小舟)での遊覧



©Hp.Baumeier

オカバンゴ・デルタを特徴づけるのはモココ。地元の言葉で伝統的なカヌーを意味し、非常に細長く、底が平らな構造をしています。手漕ぎのため、乗って聞こえてくるのは、静かに水を掻く音と風の音のみ。今でも移動や漁で現地の住民にとって大活躍の乗り物です。水深の浅い、葦の生い茂る水路を滑るように進み、逃げてしましやすい、水鳥たちを観賞するにはぴったりの手段です。

2 サファリカーのドライブ



©Tim.Cookland

サファリ体験の王道でもあるサファリカーでの観光も楽しめます。増水期の湿地を力強く走破する特別仕様の車両で、時には手が届きそうどころまで動物たちが近づいてくれます。

4 ロッジから眺める大湿原



広大なデルタ地帯、まさに大自然の真ただ中に佇むロッジです。小型飛行機を利用して、最寄りの滑走路まで移動します。部屋の1歩先は動物たちの世界。漆黒の夜、聞こえてくる彼らの鳴き声や足音、生命のやりとりは非日常へといざなってくれます。

3 水辺の動物はボートでも探索



より広範囲を探索するにはエンジン付きのボートも必須です。ゾウやシマウマといった生物たちはもちろん、現地では「リーチュエ」と呼ばれる水辺を好むアンテロープ(カモシカの仲間)の大移動などを求めて湿地帯を縦横無尽に連れて行ってくれます。